

リモート学習教材を活用した海洋環境教育 ～「うみわかまもる」プロジェクト～

NPO 法人 わかやま環境ネットワーク/一般社団法人 加太・友ヶ島環境戦略研究会
平井 研

1. はじめに

2007年に制定された「海洋基本法」の第28条には「国は、国民が海洋についての理解と関心を深めることができるよう、学校教育及び社会教育における海洋に関する教育の推進、(中略)海洋に関するレクリエーションの普及等のために必要な措置を講ずるものとする」という文言が記載されている。しかしながら、学校教育現場では海洋について学習する機会が少なく、新型コロナウイルスの影響によってその機会はさらに減少していると考えられる。一方、2015年9月の「国連SDGsサミット」をはじめ、2019年6月の「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」など、海洋ごみへの関心は年々高まりつつあり、「海洋ごみ」問題について学び、考え、取り組む必要があると考えられる。そこで、対面での活動が困難な状況下において、動画を中心とした海洋ごみに関するリモート学習教材を制作し、海洋環境教育を実践する「うみわかまもる」プロジェクトが2020年度からスタートした。

2. うみわかまもるプロジェクトとは

「うみわかまもる」プロジェクトの中心を担うキャラクターであるウミガメのまもるくんを図-1、プロジェクトの概要を図-2に示す。プロジェクトは大きく分けて2つの柱で進めている。1つ目は、リモート学習教材を活用した海洋環境教育の実践である。2つ目は海岸清掃など対面での活動であり、こちらはリモート学習した子供たちが参加するものである。1つ目のリモート学習教材については、まもるくんが様々な場所を訪れ、海洋ごみ問題の現状を伝え、問題について学習できる内容になっている。リモート学習教材の構成を表-1に示す。教材は1話あたり5～8分ほどの短い動画を制作し、全6話で構成している。第1話は物語の序章、2～3話は家庭ごみの行方、4話は海洋ごみの現状、5話は海洋ごみを活用するアーティスト、6話は今後の取り組みについての呼びかけ、といった構成である。教材の内容については、「ごみが悪い。ごみが生き物を苦しめている。だからごみ拾いをしよう」といったものではなく、例えば5話では、海ごみをごみとは扱わず、宝物としてアート作品を制作するアーティストたちと交流し、ごみとは何なのかを考えるといったストーリーになっており、各話とも、海洋ごみ問題についてより深く考えることができる内容である。

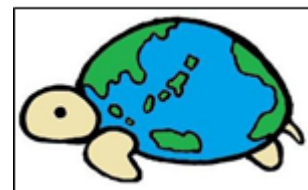


図-1 まもるくん

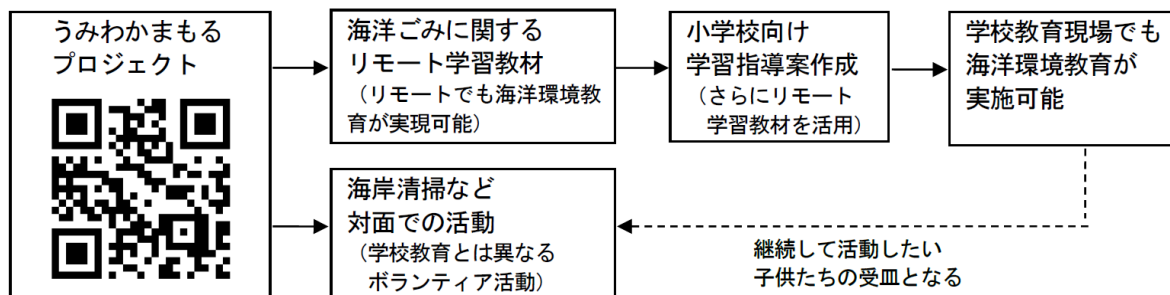


図-2 うみわかまもるプロジェクト概要

表-1 リモート学習教材の構成(学習指導案から抜粋、一部改変)

話数	タイトル	内容
1 話	新たな出会いと旅のはじまり	ウミガメのまもるくんが海ごみ問題について興味を持ち、ごみ問題について調べる旅に出ます。
2 話	ごみはどこへ行く？ -前編-	まもるくんが家庭ごみの行方を追いかけます。ごみが焼却施設でどのように処分されているか調べます。
3 話	ごみはどこへ行く？ -後編-	灰になったごみはさらにどのように処分されるのか？まもるくんがその行方を追いかけます。
4 話	海のごみをみんなの力で	家庭ごみの次はポイ捨てなどによって海に流れ出たごみについて調べます。
5 話	ごみがアートになる？	海岸に漂着したごみをアートに変えてしまう人たちに話を聴きに行きます。
6 話	次はあなたぼくといっしょに	ごみについて学習したまもるくん。海洋ごみ問題をどうすれば解決できるのかを考え、行動していきます。

このリモート学習教材をさらに活用し、小学校での海洋環境教育を実践するために「海洋ごみ問題に関する学習指導案」を作成した(図-3)。本指導案は和歌山大学教育学部附属小学校の教諭に協力いただき、教育現場において使用されている指導案に準じて作成した。つまり学校の先生方が普段使っている指導案の様式に海洋ごみ問題に関する内容を落とし込み、かつリモート学習教材を活用することにより、従来に比べ容易に学校教育現場での海洋環境教育が実施可能となった。この学習指導案とリモート学習教材を活用した小学校での海洋環境教育は、2022年度から実施されており、既に和歌山市内4校、紀の川市内1校の小学校において導入され、現在も和歌山県内外の学校から問い合わせがあり、今後さらに導入校を増やしていく予定である。導入を検討、希望される場合は図-2に示されているQRコードからHPをご確認ください。



図-3 海洋ごみ問題に関する学習指導案

3. 今後の展開

本プロジェクトはまだ始まって間もない状況であるが、和歌山市立和歌浦小学校の生徒たちは、リモート学習教材の内容を模した紙芝居を制作し、海岸清掃や各種イベントなど多くの場面で披露するなど、リモート学習がきっかけとなり、子供たちの主体的な活動が見られるようになってきた。また、HP上から登録できる「うみわかまもる隊員」は既に224名を超え、揃いのTシャツを着て海岸清掃などに取り組んでいる。本プロジェクトは子供たちが中心となって海洋ごみ問題に取り組んでいるが、本来、海洋ごみ問題は主に“大人”が取り組むべき問題である。本プロジェクトの子供たちの活動を通して、大人の意識や行動も変わるよう、今後も活動を展開していきたいと考えている。

【「うみわかまもる」プロジェクトは、一般財団法人 和歌山環境保全公社から委託を受け、NPO 法人 わかやま環境ネットワークが実施しているプロジェクトである。】